

2026 年度 事業計画書 予算書



JOCS の元奨学生たち
(GKST シナルカシ病院、インドネシア)

目次

1. 新年度の抱負	1
2. 中期計画における位置づけ	2
3. 海外諸活動	2
[3-1] 海外派遣	2
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）	2
(2) タンザニア 城田ふみワーカー（医師）	4
(3) ケニア 佐藤陽太ワーカー（医師）	4
(4) 短期ワーカー	5
[3-2] 奨学金事業	5
[3-3] 協働プロジェクト	12
(1) 第二期シロアムプロジェクト	12
(2) HOPE（若年妊娠予防に向けた健康教育）プロジェクト	12
(3) カリブムトプロジェクト	13
(4) KIND（Kids In NTDs Defence）プロジェクト	14
(5) シナルカシ病院における ICU 機能強化プロジェクト（仮称）	14
(6) カンボジア・ラタナキリ新規プロジェクト	15
(7) カンボジア・バットンバン新規プロジェクト	15
(8) ウガンダ・新規プロジェクト	16
[3-4] 災害救援復興支援	16
4. 国内諸活動	17
[4-1] 国際保健人材育成	17
[4-2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動	17
[4-3] マーケティング	18
5. 運営体制	20
[5-1] 定時社員総会	20
[5-2] 理事会	21
[5-3] 委員会	21
[5-4] 事務局	21
[5-5] 公益法人制度改正・新公益法人会計基準への対応	22
6. 予算書	23

1. 新年度の抱負

新しい時代を迎える日來たる

会長 畑野研太郎

2026 年度には、新しいことが起こります。

それは、新しいことではありますが、どこでもいつでも起こっていること。

私たちの体の中でも、数えきれないくらい起こり続けていること。古い細胞が退き、新しい細胞が生まれて活動を始めるようなこと。もし死なない細胞が生まれたら、それはヒーラ細胞、癌細胞となります。そうならないために、私たちの体の細胞は新しい細胞に命を譲っていくのです。とは言っても、JOCS の理念や働きとしては、変わらない軸は変わりません。細胞が毎日のように入れ替わっていても、私たちの体と心の存在は変わらずに続いていくのと同じように。

今年度は新しい派遣ワーカーが与えられました。久しぶりに 3 人の派遣者を与えられたことに感謝です。しかし、私たちの代表として途上国で働くワーカーは、途上国の小さくされ困難の中におられる方々と寄りそって共に生き、その方々の息吹を聞かせてくださるのですから、ワーカーを、もっともっと与えてくださいと祈り続けます。

協働プロジェクトも新しいものが加わりました。また、奨学生も増加させようと理事会で決定されました。JOCS の三本柱のそれぞれをさらに充実させていくために、事務局の強化も図らねばなりません。

今まで築いてきた JOCS の歩み、それは「みんなで生きる」をめざして構築されてきたものです。三本柱の働きが続くということは、まったく同じことが続くということではありません。それぞれの可能性を、現在の世界の状況にあわせてより適切なものに变化させていく努力を続けるということです。

そしてそのことのためにも、JOCS は新しくならなくてはなりません。現在の世界の潮流を、若い感性でとらえることができることが何よりも大切になるからです。若者と共に生きておられる新しいリーダーたちに期待します。

2. 中期計画における位置づけ

2026年度は中期計画「5カ年計画2023」の4年目となる。「御心により造り変えられ、呼び声に応える器となる」というビジョンに従い活動を進める。2025年度には、第6回JOCS海外保健医療協力者会議を受けて設立された3つのタスクグループが、それぞれ活動、マーケティング、人的資源について審議し理事会へ答申した。2026年度はその答申を受けて理事会が決定した方針に基づきJOCSの組織と活動の変革を開始する。

海外諸活動においては、奨学金事業については支援を継続実施するとともに、さらなるニーズへの対応をすすめる。協働プロジェクトは、既存プロジェクトの継続、インドネシアとカンボジアでの新規プロジェクトの開始もしくは開始に向けての事前調査をすすめる。ワーカーについてはケニアに佐藤陽太ワーカーを新たに派遣し、また、各国の支援ニーズを調査し、新たな派遣希望者の発掘をする。

国内諸活動においては、支援者を増やすためのデータ活用に向けてシステム整備をする。

3. 海外諸活動

海外派遣事業では、岩本直美ワーカーの任期を延長しバングラデシュに再派遣する。また、語学研修を終えたタンザニア派遣の城田ふみワーカーはタボラでの活動を開始する。新規派遣となる佐藤陽太ワーカーはケニアで第二期シロアムプロジェクトの活動に加わる。協働プロジェクトでは短期専門家の派遣を検討するとともに、インドネシア、カンボジア、ウガンダにおける新規の協働プロジェクトの形成のための調査を進める。奨学金事業と協働プロジェクトでは引き続き各国ごとの最新の状況を把握して事業を効果的に展開する。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュには岩本直美ワーカーを、PIMEの実施するJOYJOYプロジェクトの協力のために引き続き派遣する。タンザニアでは、城田ふみワーカーがカリブムトプロジェクトの活動をおこなう。ケニアには佐藤陽太ワーカーを派遣し、第二期シロアムプロジェクトの活動に加わる。

(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）

派遣先：PIME（Pontificio Istituto Missioni Estere：ミラノ外国宣教会）

派遣期間：2022 年 7 月～ 2027 年 3 月

活動概要：PIME が実施する「JOYJOY プロジェクト」（現地の障がいのある子どもとその家族を支援するプロジェクト）への協力

1) 組織管理と運営

①岩本の職務の責任移譲

7 月訪問予定の ALP（Associazione Laici Pime：ミラノ外国宣教会信徒会）志願者が JOYJOY プロジェクトへの長期派遣者となるよう支援する。岩本が履行している職務を整理し、それらを漸次縮小していく。

②JOYJOY 委員会

各役割と職責を明瞭にした上で、委員会の実施を図る。

③人事関連

前任のチームリーダーの離職後、選任された新リーダーと 2 名の補佐を中心に、健全な安定したチームが形成されるよう支援する。

④財務管理

金銭管理の在り方について明確にする。

2) JOYJOY 事業の活動の実施

①デイケアの運営

指導内容の質の向上と、子どもの成長発達の評価の指標を改善する。

②家庭・地域訪問

スタッフ間で訪問目的の共通理解を図り、訪問後の報告および状況理解を深められるように図る。

③特別行事

担当スタッフによる企画運営を図る。

④医療および社会福祉支援

分野を整理し、各担当スタッフと関係諸機関との関係づくりを図る。

⑤機能訓練・補助具・車椅子関連

訓練担当スタッフの技術向上と子どもたちの確実な訓練実施を図る。関連団体との協働を新リーダーが牽引できるよう支援する。

⑥親の会

母親の集いの確実な実施を図る。父親の集いの適当な実施形態を見出し実施する。

⑦啓発活動

政府・民間への働きかけを、新リーダーと共に実施していく。

⑧スタッフトレーニング

知的・発達障がい児の教育、理学療法、言語療法のトレーニングを実施する。

(2) タンザニア 城田ふみワーカー（医師）

派遣先：TAHO（Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所）

St. Ann's Mission Hospital（聖アンナ・ミッション病院）

派遣期間：2025 年 10 月～2028 年 9 月

活動概要：協働プロジェクト「カリブムトプロジェクト」の活動

TAHO が実施するセミナーとスーパービジョンの支援

1) カリブムトプロジェクト

① 聖アンナ・ミッション病院の新生児ケア部門の診療体制、設備等の現状調査をおこなう。また、新生児死亡の現状把握をおこなう。調査結果に基づき、新生児ケアの体制を整える。設備や機器の購入については、病院の、外務省草の根無償資金協力の利用を支援する。

② 聖アンナ・ミッション病院における新生児期のケア（診療を含む）の質を向上させるための研修を実施する。また、新生児期のケアに関する掲示物やマニュアルを作成する。

③ TAHO 傘下施設に対して、各施設のレベルに応じた新生児期のケアを、巡回診療の機会、また、チャンピオン（セミナーを受講し各施設でトレーナーとして働くスタッフ）間の WhatsApp（無料通信アプリ）グループを用いて指導する。また、新生児死亡の現状把握をおこなう。

2) TAHO での活動

① TAHO が傘下の保健医療施設を対象に四半期毎に実施しているスーパービジョン（巡回視察）の準備と実施を支援する。

② TAHO が年に一度開催するセミナーの準備と実施を支援する。

(3) ケニア 佐藤陽太ワーカー（医師）

派遣先：シロアムの園

派遣期間：2026 年 4 月～2028 年 3 月

活動概要：協働プロジェクト「第二期シロアムプロジェクト」の活動

4 月にケニアに渡航し、シロアムの園の包括的ケア（リハビリ、医療、教育、ソーシャルワークその他の分野）にかかるスタッフが、より質の高いサービスを提供することができるよう、研修、OJT を通して協力する。また、シロアムの園に通園する子どもたちの栄養状態を評価するとともに、必要な介入を検討する。

(4)短期ワーカー

2026 年度は短期ワーカーの具体的な派遣予定はないが、常に要望調査をし、必要に応じて派遣を検討する

[3 - 2] 奨学金事業

2025 年度から継続して、インドネシア、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、ケニア、タンザニアの 7 カ国の奨学生 69 人を支援する。2026 年度募集では、国別支援方針に従い、各国・各地域の状況を踏まえ、協力団体のニーズを考慮して支援を進める。

(1)インドネシア

GKST、ICAHS 傘下の病院で働く保健医療従事者 11 名を継続して支援する予定である。各病院のニーズに応じて、国の規定を満たし、病院の認証取得に必要な人材の育成を支援する。特に、専門医、専門看護師・助産師をはじめとする専門職の育成については、病院の要請に応じて積極的に支援する。

* GKST (Gereja Kristen Sulawesi Tengah：中部スラウェシキリスト教会)

* ICAHS (Indonesia Christian Association of Health Service：インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

(2)カンボジア

カトリック・プノンベン教区の CCHS に属する、バットアンバン州のヘルスセンターで働くスタッフ 1 名の看護師資格の取得のための研修を支援する。

* CCHS(Catholic Community Health Services:カトリックコミュニティ保健サービス)

(3)ネパール

HDCS、TLMN、UMNMDT とこれらの傘下の病院で働く保健医療従事者 18 名を継続して支援する予定である。ネパール政府が規定する各職種の人員配置数を満たすため、各病院の人材育成のニーズに応じて、長期雇用が見込まれる病院職員の資格取得を積極的に支援する。

* HDCS (Human Development and Community Services) ネパールにあるキリスト教系 NGO

* TLMN (The Leprosy Mission Nepal) ネパールにあるハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO

* UMNMDT (United Mission to Nepal Medical and Development Trust：ネパール

ル合同ミッション) キリスト教系国際 NGO。Okhaldhunga Community Hospital、United Mission Hospital Tansen を傘下にもつ。

(4) バングラデシュ

KHCP で働く 3 名を支援する。奨学生は仕事を続けながら 3 年間でパラメディック*の資格取得を目指す。KHCP では創立者の故ベーカー医師から技術を学んだ村人らが医療サービスを担ってきた。ベーカー医師亡き後、医療技術の維持・向上に加え、団体存続のために有資格者が必要となっている。

山内章子元ワーカー(理学療法士、2007～2018 年)の派遣先であった PCC (Protibondi Community Centre) が新しく奨学金のカウンターパートとなった。奨学生の要請があった場合は検討する。

* KHCP (Kailakuri Health Care Project: カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト)

* パラメディック: 医師ではないが、農村地域において、複雑でなく、頻繁に起こる病気の診断と治療および、妊娠出産時のサポートをおこなう。

(5) ウガンダ

UPMB と SRD 傘下の病院で働く保健医療従事者および職員 16 名を支援する。UPMB と SRD 共に、病院では基礎的な人材が揃いつつある。一方、保健センターでは基礎的な人材の格上げが引き続き求められている。特に SRD では、政府から派遣されていた医療従事者の政府機関への引き戻し問題と、職員の技術力不足のために持っている医療器材を十分に活用できていないという課題があり、自前の人材育成を必要としている。

* UPMB (Uganda Protestant Medical Bureau: ウガンダ・プロテスタント医療連盟)
ウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステ派の 3 教派が連携し、330 の医療施設を統括する全国規模のネットワーク組織

* SRD (South Rwenzori Diocese: ウガンダ聖公会南ルウェンゾリ教区)

(6) ケニア

シロアムの園のスタッフ 3 名を継続して支援する。療育サービス、社会的支援など包括的ケア事業の強化を目指し、引き続きシロアムの園の人材育成要請に応じる。

(7) タンザニア

TAHO 傘下の保健医療施設で働く職員 17 名を継続して支援する予定である。

傘下にある 10 の保健医療施設では、保健医療従事者の不足が深刻であり、政府が定める各医療施設の医療従事者数を満たしていない状況にある。短期の基礎的研修を受けたのみで、正式な資格を持たずに従事しているスタッフも多い。そのため、各保健医療施設のニーズに応じて、医師、医師補、看護助産師、各種検査技師、薬剤師など、基礎的な医療

分野における研修希望が多い。また、近年は業務のコンピューター化が進み、データ管理をはじめとする管理部門の人材育成のニーズも高まっている。

さらに、2025 年 4 月から TAHO と協働で実施している新生児ケアの質向上を目的とした「カリブムトプロジェクト」に関わることが期待される各施設の職員の育成も、ニーズに応じて積極的に支援する。

* TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

2026 年度支援予定奨学生一覧

インドネシア（11 名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
ボランティア	24	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020 年 08 月～ 2026 年 07 月
医師	37	男	GKST Sinar Kasih Hospital	医学（内科専門）	2023 年 01 月～ 2027 年 12 月
ボランティア	21	女	GKST Sinar Kasih Hospital	歯学	2023 年 08 月～ 2028 年 07 月
助産師	39	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2023 年 09 月～ 2026 年 08 月
ボランティア	20	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護麻酔学	2024 年 07 月～ 2027 年 12 月
臨床検査技師	34	女	GKST Sinar Kasih Hospital	臨床検査学	2025 年 09 月～ 2027 年 10 月
医師	33	男	ICAHS Lindimara Christian Hospital	医学（眼科専門）	2027 年 01 月～ 2032 年 01 月
医師	28	男	ICAHS Banua Mamase Hospital	医学（小児科専門）	2026 年 07 月～ 2031 年 06 月
看護師長	49	女	ICAHS Reksa Waluya Hospital	看護学	2025 年 09 月～ 2027 年 09 月
看護師	47	男	ICAHS Mojowarno Christian Hospital	看護学	2026 年 09 月～ 2028 年 02 月
看護師	42	女	ICAHS Mojowarno Christian Hospital	看護学	2026 年 09 月～ 2028 年 02 月

カンボジア（1 名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
ボランティア	22	女	AVPP Welcome Shelter for the sick	看護学	2024 年 05 月～ 2026 年 12 月

ネパール（18 名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
臨床検査技師	34	男	HDCS Namuna Community Hospital	臨床検査学	2022 年 09 月～ 2026 年 08 月
医師	29	男	TLMN Anandaban Hospital	医学（整形外科・外傷外科専門）	2023 年 04 月～ 2026 年 04 月
看護師	28	女	HDCS Namuna Community Hospital	看護学	2022 年 09 月～ 2026 年 09 月
臨床工学技士	38	男	United Mission Hospital Tansen	臨床工学	2024 年 04 月～ 2027 年 04 月
医療事務スタッフ	24	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	理学療法学	2023 年 06 月～ 2026 年 12 月

2026 年度支援予定奨学生一覧

看護師	31	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2025 年 02 月～ 2027 年 02 月
補助看護助産師	27	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2024 年 10 月～ 2026 年 10 月
補助看護助産師	38	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2024 年 09 月～ 2027 年 09 月
補助看護助産師	30	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2024 年 08 月～ 2027 年 08 月
臨床検査技師	35	女	TLMN Anandaban Hospital	生化学	2025 年 04 月～ 2027 年 04 月
看護師	32	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2025 年 02 月～ 2027 年 02 月
歯科助手	39	女	Okhaldhunga Community Hospital	歯学	2025 年 11 月～ 2028 年 11 月
補助看護助産師	32	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2026 年 08 月～ 2029 年 08 月
補助看護助産師	29	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2026 年 08 月～ 2029 年 08 月
理学療法士助手	42	女	Okhaldhunga Community Hospital	理学療法学	2025 年 08 月～ 2027 年 08 月
補助看護助産師	35	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2025 年 09 月～ 2027 年 10 月
医療助手	39	女	United Mission Hospital Tansen	医学（准医師）	2025 年 09 月～ 2027 年 09 月
看護師	30	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2026 年 01 月～ 2028 年 01 月

バングラデシュ（3 名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
パラメディック	51	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2024 年 01 月～ 2026 年 12 月
パラメディック	50	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2026 年 01 月～ 2028 年 12 月
パラメディック	52	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2026 年 01 月～ 2028 年 12 月

ウガンダ（16 名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
医療事務スタッフ	25	男	SRD Rwesande Health Center IV	医学	2023 年 01 月～ 2027 年 04 月
医師	33	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	医学（産婦人科専門）	2023 年 08 月～ 2026 年 08 月
臨床検査技師助手	34	女	SRD St.Paul's Hospital	歯科公衆衛生学	2024 年 08 月～ 2027 年 07 月
助産師	36	女	SRD Nyabugand Health Center III	画像診断学	2024 年 08 月～ 2028 年 08 月
助産師	40	女	SRD Kagando Hospital	医学	2025 年 01 月～ 2028 年 06 月
臨床検査技師助手	28	男	UPMB North Karamoja Diocese / KODO Health Centre III	臨床検査学	2024 年 08 月～ 2027 年 07 月
医師補	33	男	UPMB Kinkiizi Diocese / Nyakinoni Health Centre II	麻酔学	2024 年 06 月～ 2026 年 05 月

2026 年度支援予定奨学生一覧

医師補	29	男	SRD Kagando Rural Development Center	医学（耳鼻咽喉科）	2025 年 08 月～ 2027 年 07 月
准助産師	33	女	UPMB Rambia HC III	助産学	2025 年 07 月～ 2026 年 12 月
准助産師	28	女	UPMB Kabarole Hospital	助産学	2025 年 07 月～ 2026 年 12 月
医師補	35	男	UPMB Kumi Hospital	医用画像科学	2025 年 08 月～ 2028 年 06 月
臨床検査技師助手	35	男	UPMB Diocese of Northern Uganda/ Oberabic HC III	臨床検査学	2025 年 07 月～ 2028 年 06 月
情報管理スタッフ	37	男	UPMB Makonzi HC II	医療情報学	2025 年 07 月～ 2026 年 06 月
医師補	32	男	UPMB Amudat Hospital	医学	2026 年 08 月～ 2031 年 07 月
臨床検査技師助手	27	女	UPMB Mission Medical Church of God	臨床検査学	2025 年 08 月～ 2028 年 07 月
准看護師	29	女	UPMB COU Soroti Diocese- St. Peters HC II	助産学	2025 年 07 月～ 2026 年 12 月

ケニア（3 名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
カウンセラー	30	女	The Garden of Siloam	児童発達学	2025 年 01 月～ 2026 年 12 月
作業療法士	37	女	The Garden of Siloam	経営管理学	2026 年 01 月～ 2028 年 08 月
その他	25	男	The Garden of Siloam	看護学（准看護師）	2026 年 01 月～ 2026 年 06 月

タンザニア（17 名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
医師補	30	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021 年 10 月～ 2026 年 09 月
医師補	27	女	TAHO Fr.Bolle Memorial Health Center	医学	2022 年 10 月～ 2027 年 10 月
医療助手	30	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2022 年 10 月～ 2026 年 09 月
准看護助産師	35	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学（眼科）	2022 年 10 月～ 2026 年 10 月
医師補	29	男	TAHO Ussongo Health Center	医学	2023 年 10 月～ 2028 年 10 月
医療助手	30	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2023 年 10 月～ 2026 年 10 月
医師補	33	男	TAHO Rosemystica Dispensary	医学	2023 年 10 月～ 2028 年 10 月
医療助手	21	女	TAHO Ussongo Health Center	医学	2024 年 11 月～ 2029 年 11 月

2026 年度支援予定奨学生一覧

薬局スタッフ	24	女	TAHO St.John Paul II Hospital	薬学	2024 年 10 月～ 2028 年 10 月
医療助手	28	女	TAHO St.Ann's Mission Hospital	医学	2025 年 10 月～ 2028 年 10 月
医療助手	30	女	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2025 年 11 月～ 2028 年 11 月
医療事務スタッフ	29	女	TAHO St.Ann's Mission Hospital	病院管理学	2025 年 10 月～ 2027 年 10 月
医療助手	26	女	TAHO Ussongo Health Centre	薬学	2025 年 10 月～ 2028 年 10 月
臨床検査技師	30	男	TAHO Rosamystica Dispensary	臨床検査学 (学士)	2026 年 10 月～ 2029 年 09 月
医師補	30	男	TAHO Ndala Hospital	理学療法学	2025 年 11 月～ 2028 年 11 月
臨床検査技師助手	41	男	TAHO St.John Paul II Hospital	臨床検査学	2025 年 10 月～ 2026 年 10 月
医師補	46	男	TAHO St.John Paul II Hospital	放射線診断学	2026 年 10 月～ 2029 年 09 月

* 職業欄の職務・職種は奨学金申請時のもの

[3 - 3] 協働プロジェクト

ケニア 4 年目、ウガンダ 3 年目、タンザニア 2 年目、ミャンマー 2 年目となるプロジェクトを継続実施する。インドネシア、カンボジア、ウガンダは新規協働プロジェクトの形成調査を進める。

(1) 第二期シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア
活動地域 : キアンプ郡カブク村
プロジェクト期間 : 2023 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日 (5 年間)
協力団体 : シロアムの園
直接受益者 : シロアムの園に通う身体、知的、精神、行動などに障がいのある子どもたちおよびその家族、シロアムの園のスタッフ
間接受益者 : シロアムの園に通うことができていない障がい児やその家族、コミュニティの住民、その他の関係者 (地域は限定されないが、特にシロアムの園がカバーするキアンプ郡内の地域)
プロジェクト目標 : シロアムの園において、療育サービス、社会的支援など包括的ケア事業が強化される。

2026 年度は、特別支援教育を 1 名短期専門家として派遣し、シロアムの園のスタッフの能力開発に取り組む。シロアムの園では教師が 3 名いたが、現在は教師 1 名のみで、支援員はクラス活動も担当しているため、教育部門の強化も必要とされている。

また、佐藤陽太ワーカーを派遣し、スタッフが、より質の高いサービスを提供することができるよう人材育成に協力する。

(2) HOPE (Health education On Preventing Early pregnancy : 若年妊娠予防に向けた健康教育) プロジェクト

対象国 : ウガンダ
活動地域 : カセセ県
プロジェクト期間 : 2024 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日 (4 年間)
協力団体 : SRD (South Rwenzori Diocese : ウガンダ聖公会南ルウェンゾリ教区)
受益者 : SRD が運営する学校および子ども支援センターに通う生徒
プロジェクト目標 : SRD が運営する学校および子ども支援センターに通う生徒が若年妊娠のリスクから解放されるようエンパワメントされる。

SRD が運営する学校および子ども支援センターのうち新たに 5 施設を対象に、以下の

活動をおこなう。また、2024 年度、2025 年度に 1) と 2) をおこなった 13 施設では、3) の活動を一部実施する。

1) 若年妊娠について、生徒たちが置かれている現状の調査

2) 若年妊娠を含む性について話し、学びあえる環境の整備

①若年妊娠予防のための健康教育の教材を作成し、全施設の生徒たちに配布する。

②生徒たちとその保護者を対象に、若年妊娠のリスクに関する意識啓発集会を開催する。

③各施設に True Love Waits Club (性について学び、若年妊娠を防ぐための活動を実施) を発足させる

④各施設の True Love Waits Club で活動するピア・カウンセラーを育成する。

⑤各施設に True Love Waits Club の部室と「性に関する情報・教育・相談コーナー」を兼ねたスペースを設置する。

⑥生徒たちとその保護者を対象に、若年妊娠に関する対話集会を開催する。

3) True Love Waits Club の活動として、再利用可能な布ナプキンを製作する

4) SRD が運営する学校および子ども支援センターのうち、規模の大きい 6 施設を対象に、布ナプキンを付け替えられる個室を設ける。

(3) カリブムトプロジェクト (スワヒリ語で、カリブは「ようこそ」、ムトは「子」の意)

対象国 : タンザニア

活動地域 : タボラ州タボラ大司教区

プロジェクト期間 : 2025 年 4 月～ 2029 年 3 月 (4 年間)

協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

受益者 : TAHO とその傘下の 10 の保健医療施設 (病院や診療所など)

プロジェクト目標 : TAHO 傘下の保健医療施設において、質の高い新生児ケアを継続して提供することができる。

カリブムトプロジェクトは、2019 年にタンザニア国が制定した「新生児ケアと新生児ケアユニット設立のガイドライン」の基準を満たす、質の高い新生児ケアを提供できる人材の育成と新生児ケアの体制整備を目指して活動を実施する。

2025 年度は、TAHO 傘下の 10 の保健医療施設において、すべての新生児が受けるべき「基本的新生児ケア」の現状調査から明らかになった課題に対し、技術の改善に取り組んできた。2026 年度は、巡回視察やセミナーの機会を活用し、改善に向けた取り組みを継続する。

聖アンナ・ミッション病院を対象に、以下の活動を実施する。

1) 聖アンナ・ミッション病院における新生児ケア部門の整備を進める。設備等の調査結果を踏まえ、外務省の草の根無償資金協力を活用した機器購入を検討する。また、新生児期のケアに関する活動の基礎となるデータ収集と現状把握をおこなう。

- 2) 聖アンナ・ミッション病院における新生児期の診療・ケアの質の向上を目的とした研修を実施する。併せて、新生児期の診療・ケアに関連する掲示物やマニュアルを作成する。
- 3) TAHO 傘下施設のレベルに応じた新生児期の診療・ケアの改善に向け、巡回診療の機会やグループチャットを活用して支援をおこなう。また、活動の基礎となる全施設の新生児期のケアに関するデータ収集と現状把握をおこなう。

具体的な活動内容およびスケジュールは、活動の進捗にあわせて TAHO、聖アンナ・ミッション病院および城田ふみワーカーと協議の上、柔軟に調整する。

(4)KIND (Kids In NTDs Defence) プロジェクト

対象国 ：ミャンマー
活動地域 ：カイン州およびカヤー州
プロジェクト期間：2025 年 7 月～ 2027 年 6 月（2 年間）
協力団体 ：WTIND (Where There Is No Doctor)
受益者 ：700 ～ 1,500 名の地域住民
プロジェクト目標：寄生虫による病気の減少
活動 ：子どもたちの集団駆虫、トイレの建設、給水設備の設置、衛生教育

2021 年のミャンマーのクーデターによって、タイとの国境沿いの山岳地帯に逃れた国内避難民の「難民キャンプ」で生活する子どもたちを対象に、駆虫および寄生虫感染予防としての衛生環境の整備を目指したプロジェクトである。

子どもたちへの駆虫薬の投薬、清潔な給水設備の設置、給水設備の管理委員会の立ち上げ、トイレの設置、衛生的な習慣をもつための健康教育などを実施する。1 年目の活動は 6 月をもっていったん終了し、評価をおこなう。活動 1 年目では対象人数に対して不十分であった追加のトイレの建設を主たる活動とする 2 年目の活動についての可能性を検討する。

(5)シナルカシ病院における ICU 機能強化プロジェクト（仮称）

対象国 ：インドネシア
活動地域 ：中部スラウェシ州テンテナ
プロジェクト期間：2026 年 7 月～ 2031 年 6 月（5 年間）
協力団体 ：GKST（中部スラウェシ教会）地域保健サービス部門およびシナルカシ病院
受益者 ：シナルカシ病院の ICU に勤務する専門医および看護師
プロジェクト目標：シナルカシ病院の ICU において、専門性の高い医療人材の育成を通して、集中治療サービスの質向上と安全かつ効果的な医療提供体制を

構築する。

インドネシアでは、2014年に開始された国民皆保険制度の運営を担う公的機関と医療機関が覚書を締結し、その枠組みのもとで病院を運営する。公的機関への診療報酬請求には専門医の署名が必須とされているが、シナルカシ病院のICUにおける医療サービスは、麻酔科専門医が不在であるため診療報酬の申請ができず、無償で提供している状況にある。そのため、シナルカシ病院は、人材育成の最優先課題として麻酔科専門医の育成を掲げている。また、ICUに配属される看護師はICU看護師認定研修の受講が推奨されているものの、実際に同研修を修了している看護師は1名のみである。

これらの状況を踏まえ、ICUにおける適切かつ質の高い医療サービスの提供を可能にし、ひいては病院の安定した経営基盤を支えることを目的として、麻酔科専門医の育成およびICU認定看護師の育成を通じたICU機能強化プロジェクトを実施する予定である。

具体的な活動内容およびスケジュールは、活動の進捗にあわせてGKST地域保健サービス部門、シナルカシ病院と協議の上、柔軟に調整する。

(6)カンボジア・ラタナキリ新規プロジェクト

対象国 : カンボジア
活動地域 : ラタナキリ州
プロジェクト期間 : 未定
協力団体 : ラタナキリ教会（カトリック・コンボンチャム教区）、元JOCS奨学生
の医師
受益者 : ラタナキリ少数民族
プロジェクト目標 : 現代医療の有効活用
活動 : 健康教育および啓発活動

ラタナキリ州の町から離れた山岳地帯には少数民族が住んでいるが、伝統医療に頼っており、現代医療の恩恵を受けていない。原因には少数民族がおかれた社会的な位置や、現代医療への不信などがあるといわれている。活動はその山岳民族が現代医療とそれを提供する医療施設への信頼をもち、必要に応じてその利用ができることをめざす。

(7)カンボジア・バットンバン新規プロジェクト

対象国 : カンボジア
活動地域 : バットンバン州
プロジェクト期間 : 未定
協力団体 : カトリック・バットンバン教区ヘルスセンター

受益者 : ヘルスセンターのリハビリテーション部利用者
プロジェクト目標 : リハビリテーション部の機能強化
活動 : リハビリテーション部の人材育成、リハビリテーションプログラムの開発など

カンボジアのバタンバン州にあるカトリックのヘルスセンターとは、JOCS の学校保健教育の協働プロジェクト実施や、ヘルスセンタースタッフの看護学校での研修のための奨学金事業での支援などの実績がある。そのヘルスセンターにはリハビリテーション部があるが、現在カンボジアの理学療法士・作業療法士の資格を持ったスタッフはおらず、海外でリハビリテーションの研修を受けたシスターの指導を受けて活動をしているのみである。車社会化に伴う交通事故の増加、高齢人口の増加にともない、リハビリテーション部の役割は地域にとってますます重要になってきている。そのため、リハビリテーション部の機能強化を目指したプロジェクトの可能性を調査する。

(8)ウガンダ・新規プロジェクト

対象国 : ウガンダ
活動地域 : カンパラ近郊
プロジェクト期間 : 未定
協力団体 : UPMB (Ugandan Protestant Medical Bureau) と傘下の病院
受益者 : 病院の巡回診療活動先の妊産婦
プロジェクト目標 : 妊婦検診の受診率の向上
活動 : 巡回診療における妊婦検診の実施

ウガンダには、病院へのアクセスが悪いことが理由で、妊婦健診のために病院を訪れない妊婦も多い。UPMB 傘下の病院の中には、病院へのアクセスが悪い地域住民へのサービスとして、巡回診療活動をおこなっている病院がある。そのため、巡回診療の機会を利用した妊婦健診を実施することは母子保健の状況改善に有効である。その実現のために JOCS の奨学金事業のカウンターパートでもある UPMB と協働でプロジェクトを実施する可能性を調査検討する。

[3 - 4] 災害救援復興支援

自然災害等に対する支援要請が出てくる可能性に備えておく。そのためにも各国の逐次の情報入手および協力団体との関係維持と強化に努める。

4. 国内諸活動

未だ減少が続く会員・支援者の増加につながる各種施策を企画実施する。これまでの支援者に関する情報をより活用できるようなシステムの導入も進める。使用済み切手運動については寄付される使用済み切手の減少、切手整理ボランティアの減少への対策を進めていく。教会訪問は、東京事務局からの遠隔地での実施も積極的に検討していく。

[4 - 1] 国際保健人材育成

保健医療分野の国際協力に興味があり、将来その分野で活躍を希望する人を発掘し、育成するために各種人材育成活動をおこなう。国際保健医療勉強会は引き続きオンラインで実施する。また、2026年度はネパールでのスタディツアーを実施する。

(1)国際保健医療勉強会

国際保健医療協力活動に携わることを希望する人を対象に、2026年度も4回の勉強会をオンラインで開催する。また従来どおり、勉強会後に派遣希望者相談会をおこない、ワーカーの発掘・育成に努める。

(2)スタディツアー

将来的にJOCSのワーカーをはじめ、国際保健医療協力の分野で働くことを希望する者を対象に、2026年度にネパール最大のハンセン病専門病院であるTLMN アナンダバン病院へのスタディツアーを実施する。TLMNが取り組むネパールにおけるハンセン病対策について学ぶとともに、ハンセン病の治療や研究をおこなうアナンダバン病院を中心に訪問し、地域に根差した医療や社会的課題への取り組みについて理解を深めることを目的として実施する予定である。

[4 - 2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な状況におかれた人々の状況の周知、及び国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会の提供として、種々の活動をおこなう。対面での活動に加え、オンラインでの実施が効果的な活動はオンラインで実施する。

(1)使用済み切手運動

子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる国際協力活動としてより多くの人に参加してもらうため、2025年度に引き続き2026年度も広報活動をおこない、使用済み切手収集、ボランティア体験の機会を広げていく。また、使用済み切手収集に加え、書き損じハガキ、外国コインの収集もあわせておこなっていく。

2026年4月に開催される予定のスタンプショウ「STAMP-SHOW2026」へ参加する（都立産業貿易センター台東館）。

(2) 講師派遣プログラム

学校、幼稚園、社会福祉協議会などに講師を派遣する。先方の要望をよく聞き取り、その内容を反映させたプログラムを準備する。保健医療系の学校等から、専門知識を要する講義などの依頼を受ける場合は、必要に応じて現・元ワーカーや理事に講師を依頼する。

過去 10 年間の講師派遣実施団体 (1 都 3 県にあるキリスト教系団体) に対し、1 月から 2 月に講師派遣プログラムの案内を送付する。

(3) 事務局見学受入

学校、幼稚園、社会福祉協議会、地域や企業ボランティアグループなどの希望に応じ、アジア・アフリカの保健医療事情や JOCS の保健医療協力活動、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供する

(4) 国際協力イベント参加

2026 年度はグローバルフェスタ JAPAN への出展を予定している。掲示物等を工夫して人の集まるブースを目指し、JOCS の認知度を高める機会としたい。

(5) ネットワーク活動

2026 年度も「国際協力 NGO センター (JANIC)」「カンボジア市民フォーラム」のメンバーとして、情報交換や、一団体では実施困難な活動をおこなっていく。「関西 NGO 協議会」は関西事務局が閉鎖したことに伴い退会した。

JANIC のワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」「広報担当者グループ」への参加と、「NGO 非戦ネット」「『公正な医療アクセスを世界のすべての人に！』連絡会」の呼びかけ人としての活動も継続していく。

(6) 地区ボランティア活動協力

日本各地で JOCS を支援するために自主的に活動している地区 JOCS などの団体やグループと継続的に協力し、JOCS の活動を広報する。それにより支援者を増やす。

[4 - 3] マーケティング

既存の支援者に支援を継続していただくため、会報誌や年次報告書で活動の進捗を伝える。また、新規支援者の獲得に向け、キリスト教書店での広報活動や教会訪問などの対面活動のほか、オンラインマーケティングなどの広報活動にも積極的に取り組む。

(1) 会報誌『みんなで生きる』

支援者への説明責任を果たすとともに、活動への理解と共感を得るため、年 6 回 (偶数月 10 日) 発行する。

海外 3 事業 (海外派遣、奨学金事業、協働プロジェクト) の活動報告では、海外の活動地の協力団体や関係する人々の声を多く掲載するように努める。そのほか、国内活動の案

内・報告や、支援者の声も掲載する。

(2) 年次報告書

年次報告書は、夏期募金の開始時期に合わせて6月にA4版の冊子として発行する。会員および過去5年以内に寄付実績のある支援者に対し、会報誌および夏期募金趣意書を同封し、郵送により届ける。

誌面では、現地の人々のストーリーを中心に、支援によって生まれた具体的な変化や成果を伝えることで、支援継続への理解と共感を深める。あわせて、海外事業を支える国内活動の様子や、国内支援者の声も掲載し、JOCSの活動をより身近に感じてもらえる内容とする。

(3) プレスリリース

株式会社PR TIMESの社会貢献活動である「非営利団体サポートプロジェクト」を活用し、JOCSの活動についてのプレスリリースを定期的におこなう。

(4) 雑誌広告

キリスト教共感層に対してJOCSの認知度を上げ、活動を知ってもらい、新しい支援者を獲得するために、キリスト教雑誌『百万人の福音』等に1ページ広告を掲載する。JOCSの活動への共感を得られるようなストーリーを中心とした「読み物」の広告とし、海外の活動地の受益者の声などを中心に掲載する。

また、JOCS支援者層と購読者層が重なると思われる婦人之友社発行の『婦人之友』誌に広告を掲載し、新たな支援者獲得をねらう。

(5) キリスト教書店での広報活動

いのちのこば社直営のキリスト教書店で、書籍購入者へのチラシ配布（東京、大阪、通販部）をおこなう。また、日本各地のキリスト教書店に、チラシ配布や店頭での活動紹介イベントをおこなえるよう働きかける。

これらの活動により、キリスト教共感層にアプローチし、JOCSの認知度を上げ、新規支援者獲得を目指す。

(6) 教会訪問

2026年度は、これまで積極的に実施してこなかった地方の教会への訪問を強化する。ご支援くださっている教会にJOCSの活動内容を報告するとともに、個人としての入会を呼びかける。

(7) 募金

夏期募金については、例年のように年次報告書を同封した募金趣意書を支援者に送付する。冬期募金については、支援者と、直近の1年以内に初めて使用済み切手を寄付くださっ

た方に募金趣意書を送付する。

募金趣意書は、寄付がどのように役立っているのか、また今後どのように使われるのかを支援者が具体的にイメージできるようなものとする。また、冬期募金は趣意書を単独で郵送するので、受け取った人が開けたくなるような封筒を作成し使用する。

(8) 遺贈マーケティング

遺贈・相続財産寄付パンフレットを改訂する。高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に遺贈に関する広告を掲載する。JOCS の活動の認知度を高めるとともに、遺贈パンフレットの請求数増加を目指す。支援者向けには、冬期募金趣意書、年次報告書で遺贈パンフレットを案内する。

(9) オンラインマーケティング

例年通り、ホームページや SNS、Google の非営利団体向け広告プログラムを活用し、継続的な情報発信をおこなう。加えて、新たに支援者管理システムを導入することで、オンラインでの情報発信が潜在的支援者にどの程度届いているかを可視化し、支援につながる割合（コンバージョン率）などを分析できる仕組みを構築する。

(10) 会員管理システムの整理

既存の会員管理システムでは、マーケティング施策の効果を評価・改善するための共通指標を十分に設定できないという課題がある。このため、新たな支援者管理システムを導入し、マーケティングの DX 化を進める。具体的には、既存支援者に加え、ボランティア、使用済み切手寄付者、育成事業のイベント参加者など、これまで分散して管理されていた各種データを一元化する。

これにより、支援者の属性や関心、関わり方を横断的に分析し、客観的なデータに基づいたマーケティング活動の実施を目指す。

5. 運営体制

2026 年 6 月の総会では 2024 年 5 月に公布された公益法人制度改正に対応した次期役員を選出を実施する。関西事務局閉鎖に伴う切手整理業務体制の対応を引きつづきおこなう。

[5 - 1] 定時社員総会

第 65 回定時社員総会を、2026 年 6 月 6 日（土）に日本基督教団の会議室にて開催する。また、ウェブ会議システムによる傍聴も可能なものとする。

[5 - 2] 理事会

定例理事会は、8回の開催を予定している。2026年6月6日（土）社員総会までの理事ならびに監事は次のとおり

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、小宅泰郎、杉村恵子、
中畠裕一、名取智子、東岡牧、平本実、森田隆

監事：榛木恵子、渡部芳彦

2026年6月から2028年6月の理事候補者10名および監事候補者2名の選任を、2026年6月6日の社員総会に諮る。

[5 - 3] 委員会

2024年6月に組織された各委員会（財務委員会、奨学金委員会）の任期は、第65回定時社員総会開催日となる2026年6月6日翌日以降の最初の定例理事会の日までである。それ以降は、総会で選出される理事で構成される新理事会が、必要に応じて委員会を設置し諮問をおこなう。

(1) 財務委員会

委員長：中畠裕一 副委員長：吉川彰

委員：大友宣、古中大輔、飯田多香子（事務局）、石金祐実（事務局）

諮問内容：会計規程に定められた事項について審議する。

現委員会の任期中に委員会の開催予定はないが、必要に応じてメールによる協議をおこなう。

(2) 奨学金委員会

委員長：小宅泰郎 副委員長：柳澤理子

委員：霜越多麻美、細谷たき子、本田まり、吉松昌司、滝澤さおり（事務局）、
竹内里佳（事務局）

現委員会の任期中に委員会の開催予定はないが、必要に応じてメールによる決議をおこなう。

[5 - 4] 事務局

事務局長・海外事業部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

マーケティング部長 高橋淳子

東京事務局 飯田多香子、石金祐実、滝澤さおり、竹内里佳、田中良平、
中野枝実、森田真実子

[5 - 5] 公益法人制度改正・新公益法人会計基準への対応

2024 年 5 月に「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」の一部を改正する法律が公布され、2025 年 4 月 1 日に新制度が施行された。公益法人会計基準についても見直しがおこなわれ、2025 年 4 月 1 日から新会計基準の適用が開始された。

新制度では、公益法人の自立的ガバナンスの充実と透明性向上のため、外部理事および外部監事の選任が義務化された。JOCSにおいても、2026 年 6 月の定時社員総会で選任する役員に外部理事および外部監事を含める予定である。

新会計基準では、従来の正味財産増減計算書から活動計算書への変更、区分経理の義務化等、財務報告を、広く資源提供者その他のステークホルダーに対する情報開示を目的とするものへ再編成された。2026 年度は、会計システムの暫定版を用いて、新会計基準適用のための検討を進めていく。

6. 予算書

収 支 予 算 書

2026年4月1日から2027年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	4,738,000	3,652,000	1,086,000
特定資産受取利息	4,738,000	3,652,000	1,086,000
奨学積立金受取利息	1,715,000	1,416,000	299,000
災害救援復興資金受取利息	50,000	7,000	43,000
海外保健医療協力資金受取利息	2,913,000	2,205,000	708,000
海外派遣資金受取利息収入	60,000	24,000	36,000
その他積立金受取利息	0	0	0
② 受取会費	30,000,000	31,400,000	△ 1,400,000
受取会費	30,000,000	31,400,000	△ 1,400,000
③ 事業収益	9,243,000	13,540,000	△ 4,297,000
ワーカー育成収益	304,000	0	304,000
国内活動収益	39,000	240,000	△ 201,000
使用済切手収益	6,000,000	10,000,000	△ 4,000,000
書き損じハガキ収益	1,000,000	1,000,000	0
外国コイン等収益	1,900,000	2,300,000	△ 400,000
④ 受取寄付金	160,373,000	136,573,000	23,800,000
受取一般寄付金	96,500,000	92,750,000	3,750,000
指定寄付金振替額	63,873,000	43,823,000	20,050,000
⑤ 雑収益	100,000	57,000	43,000
受取利息	100,000	57,000	43,000
雑収益	0	0	0
経常収益計	204,454,000	185,222,000	19,232,000
(2) 経常費用			
① 事業費	178,955,000	160,093,000	18,862,000
海外派遣費	31,729,000	16,727,000	15,002,000
ワーカー給料手当	20,801,000	9,428,000	11,373,000
プロジェクト費	1,186,000	226,000	960,000
ワーカー旅費交通費	4,238,000	2,887,000	1,351,000
ワーカー育成	972,000	331,000	641,000
ワーカー福利厚生費	2,489,000	2,985,000	△ 496,000
保険料	2,043,000	870,000	1,173,000
奨学金	30,549,000	23,809,000	6,740,000
協働プロジェクト費	17,569,000	14,215,000	3,354,000
海外出張費	150,000	309,000	△ 159,000
国内活動費	10,917,000	13,459,000	△ 2,542,000
月刊誌刊行	1,155,000	1,223,000	△ 68,000
広報費	3,548,000	4,519,000	△ 971,000
通信運搬費	3,884,000	4,529,000	△ 645,000
整理梱包費	132,000	154,000	△ 22,000
諸集会	190,000	727,000	△ 537,000
運動推進費	730,000	1,013,000	△ 283,000
巡回旅費	1,278,000	1,294,000	△ 16,000
災害救援復興費	4,618,000	10,505,000	△ 5,887,000
研究活動費	636,000	1,411,000	△ 775,000
研修	590,000	1,362,000	△ 772,000
研究資料	46,000	49,000	△ 3,000

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
会議費	141,000	181,000	△ 40,000
委員会	141,000	181,000	△ 40,000
60周年記念事業費	0	35,000	△ 35,000
60周年広報資料費	0	35,000	△ 35,000
募金・寄付経費	3,548,000	3,877,000	△ 329,000
人件費	55,404,000	51,371,000	4,033,000
給料	37,811,000	35,633,000	2,178,000
賞与	6,818,000	6,289,000	529,000
雑給	2,064,000	1,268,000	796,000
福利厚生費	8,711,000	8,181,000	530,000
賞与引当金繰入額	6,471,000	5,304,000	1,167,000
退職給付費用	3,280,000	2,998,000	282,000
事務所費	1,838,000	4,378,000	△ 2,540,000
賃借料	0	1,697,000	△ 1,697,000
管理費	1,838,000	1,838,000	0
事務所費その他	0	843,000	△ 843,000
減価償却費	3,282,000	2,868,000	414,000
建物減価償却費	430,000	430,000	0
建物付属設備減価償却費	115,000	213,000	△ 98,000
什器備品減価償却費	2,608,000	2,096,000	512,000
ソフトウェア減価償却費	129,000	129,000	0
事務用品費	4,250,000	2,840,000	1,410,000
保守・リース料	1,162,000	1,292,000	△ 130,000
事務用品	3,088,000	1,548,000	1,540,000
通信費	1,128,000	1,530,000	△ 402,000
支払手数料	2,792,000	2,502,000	290,000
旅費交通費	144,000	1,163,000	△ 1,019,000
諸費	509,000	611,000	△ 102,000
租税公課	499,000	601,000	△ 102,000
雑費	10,000	10,000	0
②管理費	26,073,000	25,250,000	823,000
人件費	13,984,000	12,974,000	1,010,000
給料	9,453,000	8,908,000	545,000
賞与	1,705,000	1,573,000	132,000
雑給	515,000	316,000	199,000
福利厚生費	2,311,000	2,177,000	134,000
賞与引当金繰入額	1,618,000	1,326,000	292,000
退職給付費用	640,000	615,000	25,000
事務所費	460,000	1,095,000	△ 635,000
賃借料	0	424,000	△ 424,000
管理費	460,000	460,000	0
事務所費その他	0	211,000	△ 211,000
減価償却費	822,000	719,000	103,000
建物減価償却費	108,000	108,000	0
建物付属設備減価償却費	29,000	54,000	△ 25,000
什器備品減価償却費	652,000	524,000	128,000
ソフトウェア減価償却費	33,000	33,000	0
事務用品費	1,061,000	710,000	351,000
保守・リース料	290,000	323,000	△ 33,000
事務用品	771,000	387,000	384,000
会議費	1,573,000	1,574,000	△ 1,000
定期総会	361,000	450,000	△ 89,000

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
理事会	1,162,000	1,124,000	38,000
委員会	50,000	0	50,000
通信費	282,000	383,000	△ 101,000
保険料	321,000	308,000	13,000
渉外活動	636,000	1,105,000	△ 469,000
支払手数料	4,314,000	3,924,000	390,000
旅費交通費	36,000	291,000	△ 255,000
研究活動費	240,000	140,000	100,000
研修	220,000	120,000	100,000
研究資料	20,000	20,000	0
諸費	86,000	86,000	0
租税公課	76,000	76,000	0
雑費	10,000	10,000	0
経常費用計	205,028,000	185,343,000	19,685,000
当期経常増減額	△ 574,000	△ 121,000	△ 453,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 574,000	△ 121,000	△ 453,000
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 574,000	△ 121,000	△ 453,000
一般正味財産期首残高	511,740,913	511,203,857	537,056
一般正味財産期末残高	511,166,913	511,082,857	84,056
II 指定正味財産増減の部			
① 受取指定寄付金	27,500,000	89,230,000	△ 61,730,000
受取国別寄付金	300,000	300,000	0
受取奨学金寄付金	5,000,000	5,540,000	△ 540,000
受取海外保健医療協力寄付金	20,000,000	16,000,000	4,000,000
受取災害救援復興寄付金	2,000,000	27,090,000	△ 25,090,000
受取海外派遣寄付金	0	40,000,000	△ 40,000,000
受取管理業務寄付金	200,000	300,000	△ 100,000
② 一般正味財産への振替額	△ 63,873,000	△ 43,823,000	△ 20,050,000
当期指定正味財産増減額	△ 36,373,000	45,407,000	△ 81,780,000
指定正味財産期首残高	219,103,099	158,789,602	60,313,497
指定正味財産期末残高	182,730,099	204,196,602	△ 21,466,503
III 正味財産期末残高	693,897,012	715,279,459	△ 21,382,447

収 支 予 算 書 内 訳 表

2026年4月1日から2027年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業 会計	法人会計	内部 取引 消去	合計
	海外保健医療 協力事業			
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益	4,738,000	0		4,738,000
特定資産受取利息	4,738,000	0		4,738,000
奨学積立金受取利息	1,715,000			1,715,000
災害救援復興資金受取利息	50,000			50,000
海外保健医療協力資金受取利息	2,913,000			2,913,000
海外派遣資金受取利息収入	60,000			60,000
その他積立金受取利息	0			0
② 受取会費	24,000,000	6,000,000		30,000,000
受取会費	24,000,000	6,000,000		30,000,000
③ 事業収益	9,243,000	0		9,243,000
ワーカー育成収益	304,000			304,000
国内活動収益	39,000			39,000
使用済切手収益	6,000,000			6,000,000
書き損じハガキ収益	1,000,000			1,000,000
外国コイン等収益	1,900,000			1,900,000
④ 受取寄付金	140,873,000	19,500,000		160,373,000
受取一般寄付金	77,200,000	19,300,000		96,500,000
指定寄付金振替額	63,673,000	200,000		63,873,000
⑤ 雑収益	100,000	0		100,000
受取利息	100,000			100,000
雑収益	0			0
経常収益計	178,954,000	25,500,000		204,454,000
(2) 経常費用				
① 事業費	178,955,000			178,955,000
海外派遣費	31,729,000			31,729,000
ワーカー給料手当	20,801,000			20,801,000
プロジェクト費	1,186,000			1,186,000
ワーカー旅費交通費	4,238,000			4,238,000
ワーカー育成	972,000			972,000
ワーカー福利厚生費	2,489,000			2,489,000
保険料	2,043,000			2,043,000
奨学金	30,549,000			30,549,000
協働プロジェクト費	17,569,000			17,569,000
海外出張費	150,000			150,000
国内活動費	10,917,000			10,917,000
月刊誌刊行	1,155,000			1,155,000
広報費	3,548,000			3,548,000
通信運搬費	3,884,000			3,884,000
整理梱包費	132,000			132,000
諸集会	190,000			190,000
運動推進費	730,000			730,000
巡回旅費	1,278,000			1,278,000
災害救援復興費	4,618,000			4,618,000

(単位：円)

科 目	公益目的事業 会計	法人会計	内部 取引 消去	合計
	海外保健医療 協力事業			
研究活動費	636,000			636,000
研修	590,000			590,000
研究資料	46,000			46,000
会議費	141,000			141,000
委員会	141,000			141,000
60周年記念事業費	0			0
60周年広報資料費	0			0
募金・寄付経費	3,548,000			3,548,000
人件費	55,404,000			55,404,000
給料	37,811,000			37,811,000
賞与	6,818,000			6,818,000
雑給	2,064,000			2,064,000
福利厚生費	8,711,000			8,711,000
賞与引当金繰入額	6,471,000			6,471,000
退職給付費用	3,280,000			3,280,000
事務所費	1,838,000			1,838,000
賃借料	0			0
管理費	1,838,000			1,838,000
事務所費その他	0			0
減価償却費	3,282,000			3,282,000
建物減価償却費	430,000			430,000
建物付属設備減価償却費	115,000			115,000
什器備品減価償却費	2,608,000			2,608,000
ソフトウェア減価償却費	129,000			129,000
事務用品費	4,250,000			4,250,000
保守・リース料	1,162,000			1,162,000
事務用品	3,088,000			3,088,000
通信費	1,128,000			1,128,000
支払手数料	2,792,000			2,792,000
旅費交通費	144,000			144,000
諸費	509,000			509,000
租税公課	499,000			499,000
雑費	10,000			10,000
②管理費		26,073,000		26,073,000
人件費		13,984,000		13,984,000
給料		9,453,000		9,453,000
賞与		1,705,000		1,705,000
雑給		515,000		515,000
福利厚生費		2,311,000		2,311,000
賞与引当金繰入額		1,618,000		1,618,000
退職給付費用		640,000		640,000
事務所費		460,000		460,000
賃借料		0		0
管理費		460,000		460,000
事務所費その他		0		0
減価償却費		822,000		822,000
建物減価償却費		108,000		108,000
建物付属設備減価償却費		29,000		29,000
什器備品減価償却費		652,000		652,000
ソフトウェア減価償却費		33,000		33,000

(単位：円)

科 目	公益目的事業 会計	法人会計	内部 取引 消去	合計
	海外保健医療 協力事業			
事務用品費		1,061,000		1,061,000
保守・リース料		290,000		290,000
事務用品		771,000		771,000
会議費		1,573,000		1,573,000
定期総会		361,000		361,000
理事会		1,162,000		1,162,000
委員会		50,000		50,000
通信費		282,000		282,000
保険料		321,000		321,000
渉外活動		636,000		636,000
支払手数料		4,314,000		4,314,000
旅費交通費		36,000		36,000
研究活動費		240,000		240,000
研修		220,000		220,000
研究資料		20,000		20,000
諸費		86,000		86,000
租税公課		76,000		76,000
雑費		10,000		10,000
経常費用計	178,955,000	26,073,000		205,028,000
当期経常増減額	△ 1,000	△ 573,000		△ 574,000
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0			0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0		0
当期経常外増減額	0	0		0
他会計振替額	0	0		0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 1,000	△ 573,000		△ 574,000
法人税、住民税及び事業税	0	0		0
当期一般正味財産増減額	△ 1,000	△ 573,000		△ 574,000
一般正味財産期首残高	468,848,428	42,892,485		511,740,913
一般正味財産期末残高	468,847,428	42,319,485		511,166,913
II 指定正味財産増減の部				
① 受取指定寄付金	27,300,000	200,000		27,500,000
受取国別寄付金	300,000	0		300,000
受取奨学金寄付金	5,000,000	0		5,000,000
受取海外保健医療協力寄付金	20,000,000	0		20,000,000
受取災害救援復興寄付金	2,000,000	0		2,000,000
受取海外派遣寄付金	0	0		0
受取管理業務寄付金	0	200,000		200,000
② 一般正味財産への振替額	△ 63,673,000	△ 200,000		△ 63,873,000
当期指定正味財産増減額	△ 36,373,000	0		△ 36,373,000
指定正味財産期首残高	219,103,099	0		219,103,099
指定正味財産期末残高	182,730,099	0		182,730,099
III 正味財産期末残高	651,577,527	42,319,485		693,897,012

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会

Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service
(JOCS)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-51

TEL : 03-3208-2416 FAX : 03-3232-6922

URL <https://www.jocs.or.jp>